

岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは「除草名人」

「山羊やぎでの除草隊」愛知・岐阜で活躍中

草は業者が刈り取ると、産業廃棄物として扱わなければならない焼却などの費用がかかります。だがヤギが食むと餌となります。処理費用が浮くだけでなく、ヤギによる除草は費用以外にも利点があるという。

産廃出さず環境にやさしく 山羊は人懐っこく癒しもあるのです。

農業生産法人フルージック（岐阜県美濃加茂市）代表の渡辺祥二さん（52）の周りに、体をなでてもらおうとヤギが集まってきます。

渡辺さんがヤギによる除草を始めたのは2011年のこと。かつて勤務していた建設会社が新規事業として農業に進出した経験から起業して、岐阜県高山市で温泉熱を利用したドラゴンフルーツを栽培していたところ、たまたまヤギを飼うことになり、本格的に除草に乗り出した。

11年に2頭だったヤギは現在約50頭にまで増えた。斜面の草はヤギがほとんど食べるので処理費用はかからず、燃やして二酸化炭素（CO₂）を出すこともない。国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）の理念にもかなっている。

フルージックが昨年度にヤギ除草を請け負ったのは3自治体と企業10社ほど。

ENEOS 根岸製油所（横浜市）を除けば、ブリヂストン関工場（関市）をはじめ、ほとんどが岐阜県内にある事業所だった。

昨年、愛知県内から初めて依頼があり、3頭のヤギが11月上旬の1週間、「お試し」で出動した。派遣先は愛知県北名古屋市の土地区画整理事業地（約600平方メートル）だった。ヤギ除草の導入を検討していた市が実証実験をしようと、ここで物流施設の建設を予定している企業に提案。企業が費用を負担する形で実現した。市都市整備課の担当者は「音もなしいし、CO₂削減など環境負荷の軽減が期待できそう。導入を検討していきたい」と話す。刈り取った草の処理費用がかからないという経済性のほかにも、癒し効果があるという。

アマゾンジャパンの物流拠点の一つ、多治見フルフィルメントセンター（岐阜県多治見市）は13年以降、コロナ禍の20年を除き、5～10月に月3度、除草隊を受け入れた。ヤギ除草の導入は、自然環境への配慮に加え、働く人たちの癒やしになると考えたためだ。ヤギの除草日に合わせて勤務シフトを変更する人もいるという。「いつもとは違うモチベーションで業務をしてもらえる。継続していきたい」と同社の担当者。

市内の緑地の除草を委託している美濃加茂市は、ヤギ除草の日程を公式サイトで公開している。市土木課の担当者は「ヤギの除草隊は市のアピールポイントにもなっている」という。ヤギの世話をするための休日はなく、逃げ出すなどのトラブルに備え、飲酒も控えているという渡辺さん。それでも「ヤギとの時間はゆっくり流れる。ともに生きていく喜びがある。興味があり、ともに生きるパートナーとしてヤギのことを考える人であれば、培ってきたノウハウを伝え、育てていきたい」と話しています。一度、心通う山羊体験をしてみませんか。